

私の宝物

ど う め き たけし
百 目 鬼 健
(太平化成株式会社)
代表取締役社長



今から40年程前の話なので今の若い人たちは、当時はそんなものなのかと思ってしまうかもしれませんが、当事者にとっては衝撃的で高校の同級生達からも異質な世界と言われていました。そんな大学時代の話です。

私は東京生まれで東京育ち、海に憧れていたわけでも船乗りになりたかったわけでもないのに、なぜか東京商船大学という船員養成学校に入学してしまいました。入学のいきさつはいろいろとあったのですが、この件を話し出すと長くなるのでしません。とにかく入学しました。この大学は当時男子のみの学校で、船員教育の一環として、学生は全員、学生寮に入らなければいけません。通学が可能でも入寮は必須です。場所は深川のお不動様や八幡宮のある門前仲町に近い越中島というところにあります。キャンパスと道をはさんだ隣り合わせに学生寮があります。一学年160人が4学年、計640人が四つの建屋で生活していました。部屋は4人部屋で各学年一人ずつの構成です。同じ部屋で4年間（実際の卒業は遠洋航海実習等を加えて4年6ヶ月ですが）暮らして卒業します。ということは、実習生を送り出したところに新入生として入っていくこととなります。ご想像の通りに最下級生としての寮生活のスタートです。ちなみに2年生は人間、3年生は天皇、4年生は神様で、当然1年生は奴隷ということになります。

入学式の前に入寮します。寮務委員会から自分の入る部屋を聞き、その部屋の先輩が引き受けに来てくれます。まずは部屋の先輩方に挨拶をしてから2年生に連れられて他の部屋に挨拶回りをします。当時は今のように未成年の飲酒に対する目は厳しくなくて、挨拶回りの出迎いはビールか日本酒と相場が決まっていました。中にはウイスキーというのもありましたが希でした。当然未成年の私は飲酒経験はあるものの、酒に強いわけではなくて酔っ払ってしまいます。一緒に回ってくれている2年生の先輩が代わりに飲んでくれたりして、まずは入寮の始めの儀式が終わります。その後にキャンパスでの入学式が始まります。式の最中に飲み過ぎて嘔吐する同級生も居たりして度肝をぬかす初日となりました。

そんなスタートとなった大学生活ですが思い出はやはり寮での出来事ばかりです。勉強をしていないわけではないのですが、365日毎晩宴会があります。信じられないですが本当です。

大体、夜の9時ごろから部屋の床に毛布を敷いて車座になって飲み始めます。すると嗅ぎつけた近所の部屋の先輩達も入ってきて盛り上がっていきます。酒やつまみの買い出しは1年生の役目です。1年生はお金を出すことはほとんど無くて上級生が全部出してくれます。酒が強くなかった私はお酌されるのが辛かったですが、そのおかげで少しは飲めるようになりました。

この毎晩のような宴会では必ず寮歌を歌います。一曲ではなくて何曲もあります。自然に「歌おう!」ということになってみんなで歌い出します。

戦前の大学生ではありません。私が入学したのは、第一次オイルショック後の昭和51年でした。中学の同級生が北大の寮歌「都ぞ弥生」が歌いたくて、恵迪寮に入りたいと言っていました。この大学にも寮歌があり、学生はみんな愛吟していました。

代表的な歌で「嗚呼、月明は淡くして」というのがあります。船乗りを志した青年が自然の猛威に立ち向かって命をかけて進んでいくというものです。この歌は卒業してからの会合や宴会の締めで歌うことが多い寮歌です。また、寮歌祭という東大、京大、北大等のOB達が集まって寮歌を歌う大会がありますが、そこで歌われるのは「白菊の歌」という歌です。この歌は学生寮で頑張っている学生が夜に一人ふるさとを思い出し辛い学生生活に涙しながらも、再び奮起していく姿を歌っています。また、昔、清水にキャンパスがあったころ、当時の蛮カラで勇ましい学生を歌った「清水港のおぼろ月夜」とか、海の素晴らしさや厳しさを歌った「海のロマンス」、練習船での厳しい訓練に頑張る姿を歌った「練習船の歌」、大学創立85周年を記念して、昔は練習船として使用していた明治丸を偲んで作られた「明治丸の歌」。まだまだ他にも寮生全員で歌った歌があります。その中でも私が好きな歌は「商船校の生徒にゃ」という寮歌です。この歌は恋人を残して遠洋航海に出航した実習生が、練習航海を頑張って立派な船乗りとして帰って来て恋人と結ばれるというチョット軟派な内容です。全曲8番まであるので、ここで歌詞を全部披露することは出来ませんが『どうせオイラは太平洋の沖の鷗が恋人さ』と練習航海に出て行く1番から始まり、最後の8番は次の歌詞で締めくくられています。『長い航海よく待っていたね、俺がやさしく慰めりゃ、彼女健気に「そんなことないわ」、そこで波止場に花が咲く花が咲く』となります。宴会で盛り上がるのにとっても陽気な曲になっています。

今、思い出す寮生活はとても楽しく懐かしい時代だったと強く感じていますが、現在ならパワハラ以外の何物でも無かった生活だったことも確かなことです。卒業後に別の大学で経営を学びMBAを取得しました。3代目として家業を継ぎ、社長業も今年で丸29年になりますが、役に立ったのはMBAで勉強したことではなくて、あの寮生活での経験だったとつくづく感謝しています。

今、母校は合併して東京海洋大学となり、男女共学で全寮制度もなくなり、当時のような経験をしたくても出来ない世の中になってしまいました。弱肉強食の生き残りを懸けたビジネス社会において必要なものは一体何なのかを考えさせられるような気がします。

人生も残り少なくなった私にとって、今でも一緒に寮歌を歌える大勢の同級生・先輩・後輩がいることが大切な宝物です。